

特集

新しい生活様式下における社会教育委員と関係行政機関の対応と課題

広島県立生涯学習センター「オンライン研修」の試み ～コロナ禍における生涯学習・社会教育関係職員研修等の実践から～

広島県立生涯学習センター振興課長

松田愛子

本稿では、新型コロナウイルス感染症に係る県の方
実践研究の観点から、本年度試行的に開始した「オンラ
イン研修」について報告する。

一 事業開始の経緯

4月初旬、新型コロナウイルス感染症に係る県の方
針を受け、研修事業等の当面の「延期」が決定さ
れた。そこで、感染症の影響の長期化を想定し、既存
事業の対応方針を整理するとともに、新たな取組とし
て、当センターの機能の一つである「調査研究」の観
点から、ICTを活用した遠隔研修や、個人学習とし

ても活用できる研修コンテンツの充実等に着手するこ
ととした。方向性の整理を進める中で、テレワークが
導入、2班に分かれての分散勤務となり、職員間での
コミュニケーションも困難な状況となったが、「ピン
チをチャンスに！」の発想で変化を恐れず挑戦するこ
と、最初から完璧でなくていい、まずやってみる、や
りながら考えることをチームで共有しながら取組を進
めた。暗中模索のスタートであったが、当センターが
プラットフォームとして培ってきたネットワークの助
けを得ながら、県の情報担当課や各市町・公民館等の
関係施設へWeb環境の実態について何度も聴取調査

を行い、5月下旬にはWeb会議システム「Zoom」を活用した「オンライン研修」の第一弾の開催案内にござつけることができた。11月末現在、従来の「集合研修」に代えて「オンライン研修」として11回の研修を実施（表1）、延べ404名が参加、年度内には少なくとも累計700〜800名程度の参加を見込んでいる。先行事例が不足し、何よりICTに関しては担当職員が誰もがほぼ「初心者」という状況の中、様々な困難を乗り越えて「オンライン研修」をいち早く「形」にできたことは、当センターの社会教育主事たちの大きな自信につながった。

二 「オンライン研修」の様子

(一) 基礎研修

初任者を対象とした「基礎研修」は、緊急性が高い内容と捉え最優先で実施した。環境整備に不安を残したままで開催に踏み切ることとなったが、想定数を大きく超える参加申込（78名）があり、オンライン活用への期待や研修ニーズ等、今後の可能性に向けて確実な手ごたえを掴む契機となった。

「Zoom」の操作研修を含んだ「通信テスト」は、現在は研修開始一週間前の一回であるが、当初、それぞれ

(表1) 令和2年度広島県立生涯学習センター研修体系

| 住民の学習活動の支援者として必要な知識・技能の習得と情報交換の場を提供します。 | | ■生涯学習センターの機能 | |
|---|---|---|---|
| 市町職員等研修 | 生涯学習基礎研修 (全1回) | 講義 生涯学習の基本事項、国・県の動向 演習 生涯学習・社会教育関係職員との役割 実践交流 現場からの報告～やりがいと楽しさ～ | オンライン研修 6/26 |
| | 生涯学習プログラム研修 (全2回) | 講義 学習プログラム開発の理論と手法 演習 学習プログラム開発の実例、相互評価・総評 | オンライン研修 ① 8/21 ② 8/28 |
| | 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」(略称：ひろプロ) (全2回) | 講義 学びから始まる地域づくり 説明 広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」の概要、企画シートの作成 演習 企画シートの制作評価、講評等 | オンライン研修 ① 9/14 ② 9/25 |
| | 社会教育主事等研修 | 講義・演習 ①<生涯学習総論> ②<社会教育支援論> | オンライン研修 ① 10/2 ② 10/9 |
| | 地域課題対応研修支援 (訪問型研修) | センターの社会教育主事が活用し、多岐化する地域課題に対応した市町の研修(人材育成)を総合的に支援。広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」のモデル実践を含む。 | |
| 公民館等職員研修会 (全2回) (広島県公民館協会との共催) | 講演・ワークショップ・意見交流・体験講座 ① Withコロナ社会における公民館等の運営 ② Zoomに挑戦! オンライン講座の開設に向けて | オンライン研修 ① 11/26 ② 11/27 | |
| 社会教育委員研修会 (広島県社会教育委員連絡協議会との共催) | 講演・トークセッション 社会教育の動向、社会教育委員の役割等 | 中止 | |
| ボランティア・審判員 | 家庭・地域の教育力向上につながる知識・技能の習得と情報交換の場を提供します。 | | |
| | 地域と学校の連携・協働体制構築研修会 (期) | 講義 地域学校協働活動の意義等 事例発表、講評、意見、情報交換等 | オンライン研修 2/3 |
| | 「働の力」をまなびあう学習プログラム ファシリテーターステップアップ研修 | 講義・演習 子供との接し方 実技 危機管理、応急手当・救命処置等 講義・演習 家庭教育支援の在り方、教材研究等 意見交流等 コロナ禍での「親プロ」講座等 | 中止 オンライン研修 ① 9/29 ② 1/19 ③ 2/24 |
| 市民職員 | 社会教育主事講習 [A] | 講義 生涯学習概論、社会教育概論、生涯学習交差点 演習 社会教育実習 ※分科別受講 (ただし、参加申し込みの時点で希望の分科を希望してください。) | 【県内1会場・全26日】 1/21～2/18 (県立生涯学習センター) |
| | 連携・協働のプラットフォームとして、広範なネットワークづくりを推進します。 | 広島県生涯学習研究実践交流会 (日本生涯学習学会との共催) | 基調講演 ポストコロナ時代の学び・つながり トークセッション、グループセッション ハイブリッド開催 3/6 (対面・オンライン) |

調査研究
情報提供
指導者研修
モデル事業

市町関係機関・団体等との連携・協働

指導者研修の基本的方向性

実践重視
「学んだことを生かす」力が身に付くよう、実践を重視。

参加型
自ら主体的に考え、他者と協働しながら学ぶことで、新たな気づきや価値を創造。

交流の場
「互いの実践から学ぶ」という「経験を生かす」として、参加者同士の学び合い・交流を促進。

コーディネート力向上
市町で中心的な役割を果たす「社会教育主事」や中堅・ベテラン職員の指導力・コーディネート力を向上。

評価・改善
「学習成果」の評価を基本とした研修事業の評価・改善システムの構築。

「学んだ」や「学んだこと」が好循環する仕組み作り

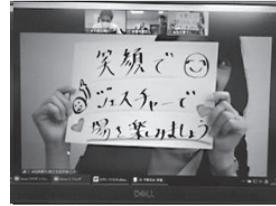
連携・協働のプラットフォームとして、県と市町、それぞれが担う研修で「学んだ人」や「学んだこと」が好循環する仕組み作りを目指します。

に異なる環境に個別に対応するには事前のテストや研修を何度も繰り返す必要があり、相当の時間をかけた。さらに、参加に必要な環境や基本的な操作方法等の「手引き」を作成しHPに掲載した。この参加マニュアルは、現在、県内外で広く共有・活用されている。

研修当日は、基本的な講義・演習のほか、仕事の楽しさややりがいを語る「トークセッション」、オンライン上での「アイスブレイク」や「オンラインランチ会」、参加型の「突然ですがクイズです！」タイム等の創意工夫を取り入れた。また、オリエンテーションでは、「カメラ・マイクのオン・オフ」「名前表示」「チャットの活用」等のオンライン集会の「ルール」のほか、「楽しみながら、体験を通じて学ぶ」「失敗から学ぶ」「学んだことを生かす」等の研修で大切にしたい視点をメッセージとして提示した。これらの視点は、オンライン事業に関わる基本的な姿勢として、その後の研修でも改善しながら発信を続けている。



オンラインアイスブレイク



オリエンテーション

(二) 学習プログラム研修

講義内容を事前にHP上に掲載した研修コンテンツで知識習得し、研修当日は、実際にプログラム開発(個人演習)し、グループで意見交流して理解を深める「反転学習」の理論を取り入れた。「Zoom」のブレイクアウトルーム機能を活用したグループワークを行ったが、ワイワイガヤガヤとチームで汗をかきながら一つのものを作り出す「対面型」のワークに代替できる操作性は担保しづらいことが課題として浮かび上がった。

(三) 「ひろプロ」コーディネート研修

広島版「学びから始まる地域づくりプロジェクト」(略称:ひろプロ)は、公民館を拠点とした住民の主体的・協働的な学びと学びの成果を生かした地域づくりのプロジェクトである。この事業の要となる公民館職員のコーディネート力向上を目的とした本研修は「体験型・参加型・参画型」をその趣旨の一つとしている。今回は、新たに「アンケート機能」を活用して受講者の主体的な参加意識を高める工夫を行った。

(四) 社会教育主事等研修

社会教育主事の役割の整理を踏まえ、今年度から新たに「社会教育主事講習」の科目に新設された「社会教育経営論」及び「生涯学習支援論」をテーマとした「現

職研修」である。ここでは、オンラインでの「ファシリテーション研修」という前例のない実験的な内容にも挑戦した。PowerPointファイルを「模造紙」に、テキストボックスを「付箋」に見立てたワーク等を行い、今後の「オンラインワークショップ」や「オンラインファシリテーター」の可能性について意見交流した。当日は、県教育委員の視察があり「民間や全国と比較しても遜色ない取組である」等の高い評価を得た。

(五) 公民館等職員研修

「Withコロナ社会における公民館等の運営」をテーマに、沖縄・福岡・広島から、オンラインを活用した公民館事業の最先端の提供事例をもとに意見や実践を交流するほか、「Zoomに挑戦！入門編」として、公民館でのオンライン講座の開設に向けた「Zoom」の基本操作を学ぶ実践的な研修を実施した。

三 見えてきた「成果」と「課題」

これらの実践の成果として、「オンライン研修」のノウハウや成果の積み上げが飛躍的に進み、学びを止めない仕組みづくりに向けた事業の方向性が見えてきたことは最も大きい。感染防止のための物理的・身体的な接触を回避した事業の在り方を実証できただけで

なく、コロナ禍という前例のない状況の中で方向性を模索して事業を形作れたことは、市町から信頼される当センターの存在意義の発信にもつながった。移動にかかる時間や経費の制限なくどこからでもそれぞれの状況に応じて参加できる、また、遠方からの講師招聘や打合せもしやすい等の「距離を感じさせない」オンラインのメリット、さらに、オンラインでの学びを関係職員やコーディネーター等の指導者が体験的に学習できたことは、一過性のものでなく、今後の学びや事業の広がりにつながる可能性・発展性を有している。実際に、県内でのオンライン事業の取組は進みつつあり、例えば、広島市の「リモート公民館（リモコひろしま）」や、広島市生涯学習フェスティバルでのオンラインイベント開催はその一例である。

事業実施後のアンケートでは、90%以上の参加者が職務への役立ち感を得ており、



ハイブリッド型「親プロ」講座
(生涯学習フェスティバル)



オンラインキッチン
(リモコひろしま)

「新しいつながりづくりのヒントが見えた」「実際に経験してみても納得できた」「マンネリ化しているプログラム改善の参考にしたい」等、新たな挑戦への意欲的な意見が寄せられた。またその一方で、やはり、こうした時だからこそ「リアルなつながり」を求める多くの声があること、ワークシヨップ(参加体験)型の学習にオンラインはなじみにくいこと、さらに、役所や社会教育施設のデバイスやWeb環境整備、デジタルリテラシー等の情報格差、肖像権・著作権への配慮の問題等、様々な課題も残っている。

四 今後に向けて

こうした成果と課題を踏まえ、当センターでは「集合・対面型」の学びと「オンライン(又はオンデマンド)型」の学びの双方の良さを組み合わせた「ハイブリッド型」(図1)の新しい学びの在り方について、モデル開発の検討を進めている。また、現在、休止中の大学生ボランティア活動支援事業や、集まりの場に参加しにくい親に届けるための家庭教育支援事業のハイブリッド化にも着手していく必要がある



(図1)「ハイブリッド型」イメージ

る。スピード感をもって実現に取り組みたい。

おわりに

生涯学習・社会教育の要となるのは、学びの場を通じた「つながり」の創出である。コロナ禍でより顕在化した社会的つながりの分断や希薄化を食い止め、未来に向かって誰もが幸せに暮らし続けていくために、私たちができることは何だろうか。世界は「グリーン・リカバリー」や「ビルド・バック・ベター」と呼ばれる新しい経済や社会システムへの転換を模索し始めているそう。元の世界へ戻る「オールド・ノーマル」でなく、「ニュー・ノーマル」の社会をどう描いていけるのか。「不易流行」という言葉があるが、いつまでも変化しない本質的なものの中にも、新しさを取り入れて変化していくという考えが必要だ。オンラインの力は様々な可能性を秘める一方で、あくまで手段に過ぎないともいえる。なぜ何のためなのかの本質を忘れてはならない。How(どのようにやる)の前にある、Why(なぜやる)の問いを持ちながら、ポストコロナ時代の新しい学びの創出、「学びを止めない」豊かなつながりをつくる「仕組みづくり」に挑戦し続けていきたい。

(まつだ あいこ)